

令和元年度 事業報告書

社会福祉法人つつみ会
阿見きらり保育園

目 次

1. 事業内容	1～6
(1) 保育全般について	1
(2) 各クラスの保育状況について	1～2
(3) 特別事業について	2～3
(4) 入園・特別事業利用状況について	3～4
(5) 給食・食育について	4
(6) 保健衛生について	4～5
(7) 行事について	5
(8) 保護者対応について	6
(9) 事故防止と安全対策について	6
(10) 関係機関・地域との連携交流について	6
2. 職員の状況	7～8
(1) 職員配置について	7
(2) 各会議の実施について	7
(3) 職員研修について	7～8
3. 苦情対応について	8

1. 事業内容

(1) 保育全般について

基本理念である『生き生きときらり輝く笑顔あふれる保育園を目指します』に基づいた保育事業の確立に向けて取り組んできた。そして、具体的な保育目標である『子ども一人ひとりが個性豊かにきらりと輝く成長を目指します』『保護者との信頼関係を築き協力しながら子育てをします』『地元との連携を図り、きらりと輝く地域福祉の場を目指します』『職員が生き生きと働ける職場を目指します』に沿って、保育の実践を行い保育方針の実現のために保育計画を作成し、達成できるように努めた。

心に関しては、集団生活の中で玩具の貸し借りや遊具遊びの順番等様々な場面で、他を思いやる心や社会ルールを育めるような働きかけや声掛けを行った。また、朝夕の合同保育や散歩など異年齢同士での活動や遊びを通し、年下の子へのいたわりや優しさを知り交流することができた。

体に関しては、園庭の様々な遊具を活用して楽しく遊びながら体力をつけた。特に築山では登ったり降りたりを繰り返すことにより、足腰の運動に繋がった。夏はプールでの水遊びを楽しんだ。秋には運動会を行い集団での競技練習を通して体を鍛えるだけでなく協力する大切さを学んだ。3歳児以上は1年間を通して専門講師によるダンス教室を定期的に行い、リズム感や体幹を高めた。更には、週1回体操とマラソンを実施した。年齢に合った目標を掲げて走ることにより体力をつけてきた。

頭では、各年齢ごとに季節や年齢に合わせたテーマで、様々な素材を活用し造形活動を行い創造する楽しさを味わうことが出来た。0・1歳児はシール貼り等、指先を使った簡単な作業を行い2歳児以上からは、「描いたり」「切ったり」「折ったり」する作業を組合わせた創作活動を行った。また、日常的に紙芝居や絵本の読み聞かせを行い、子ども達の知的な興味や関心を深め集中力や想像力を育むことに努めた。更に、3歳児以上は月2回の外国人講師による英語のレッスンをを行い、英語への興味をもたせ楽しく学ぶことが出来た。また、5歳児は就学に向けたトレーニングとして、「学びタイム」を月2回設けた。文字に対する興味関心を高め、卒園するまでに、全員が正しく名前が書けるようになった。

(2) 各クラスの保育状況について

① 0歳児クラス

入園当初は、保護者の方と離れるとすぐに泣いている子が多く、抱っこやおんぶや散歩車等でテラスや園内散歩をしながら気分転換をさせ気持ちを落ち着かせる等して過ごした。園の生活に慣れてくると、特定の保育士に甘えるようになり、愛着関係を大切にふれ合いを多くかかわるようにした。後半になってくると、他児に興味を示すようになり、積極的に他児に関わろうとする姿が見られ、手をつないだり、玩具のやり取り(「かして」「どうぞ」「ありがとう」)をして遊び過ごした。遊びの中でお座りやハイハイ、つかまり立ちを促すうちに、だんだんと歩行が確立するようになった。食事では、家庭と連携を取りながら、様々な食材を試みってもらうようにすることで、離乳食から幼児食へと食事の形態を変えていった。

② 1歳児クラス

年間を通して静と動の活動のメリハリを大事に保育をしてきた。戸外では園庭遊びや散歩、室内ではリトミックや遊戯など、保育士と一緒に思いきり体を動かした。制作では、指先を使うものを多く取り入れ楽しんで集中出来るようにした。また、絵本の読み聞かせやパネルシアターなどで保育士に集中することで、落ち着いて話を聴けるようになった。友達や保育士の名前を憶え呼んだり、会話をし、一緒に遊ぶ姿も増え、ごっこ遊びを楽しめるようになった。トイレトレーニングは排泄の

成功により自分でズボンの脱ぎ履きをしてトイレに行く習慣がつくことを目標とした。後半は、自分のことは自分でやりたいという気持ちを大切に、たくさん褒めて自信に繋がるように心掛けた。

③ 2歳児クラス

興味のある事には集中出来ていたが、興味のない事になると落ち着かない子どもが多かった。しかし、身の回りの事は声をかけると良く出来ていた。活動では子どもたち体を動かす事が好きのため、リトミック、体操、かけっこ等を取り入れていった。制作では、絵の具・クレヨンを取り入れて描くを楽しんだ。排泄では、個々に合わせたトイレトレーニングを進めていき、クラスの半数以上がパンツになっていった。後半には当番活動を行い、帰りの会に一人ずつ名前を発表する場を設けた。子ども同士で言葉のやり取りが出来るように援助していった。

④ 3歳児クラス

4月に6名の新入園児が入り、26名の園児で1年間生活した。戸外遊びでは、サッカーや氷鬼などルールのある遊びを取り入れ、誘い合ってグループごとに遊んだりする姿があった。室内遊びではブロックを使い、乗り物や生き物を作り楽しむ姿が多く見られた。制作では自由画を好み、クレヨンで時間をかけて集中して描き続けられるようになった。歌を歌うことを楽しみ、楽器を使いみんなで表現することが出来た。他児が困っていたら心配して声を掛けたり、保育者に知らせたりする優しい気持ちも育ってきた。1年間を通して手洗い等の清潔を心掛け、健康的に過ごし病気で休む子どもも少なく過ごせた。

⑤ 4歳児クラス

新入園児は新しい環境に慣れる事から始まり、進級園児も新しいクラスに慣れて出来る事を伸ばしていった。日々の生活の中で、出来る事は自分で出来るように促した。また、出来た時は褒めて伸ばしていくように努めた。遊びは体を動かすことを心掛けた。また、ルールのある遊びを通して、友達と関わる時は、言葉で気持ちを伝えられるように声掛けしていった。徐々に自分の気持ちが伝えられるようになった。時には、トラブルもあったが、自分の気持ちをお互いに伝えることで解決できることもあった。また、基本的な生活習慣が身に付いたり自分で頑張ろうという気持ちが芽生えてきた。更には、お手伝いする事で人のためになるという喜びを感じられるようになってきた。絵本や紙芝居の読み聞かせをする事で創造力が芽生え楽しめるようになった。散歩や戸外遊びを多く取り入れ、楽しく生活することが出来た。

⑥ 5歳児クラス

年長児としての自覚が芽生え、積極的に異年齢児と関わりをもち、思いやる姿が見られるようになった。また、保育士や友達との関りの中で、社会や集団生活のルールや約束事を理解しながら行動することができるようになった。その中で、自分の思いを相手にしっかりと伝えられるようになった。様々な遊びを通じて身体能力が向上し、活発に活動する姿が見られた。基本的な生活習慣が身に付き身辺自立が確立した。就学に向けて意識し、「まなびタイム」では、ひらがなや数字に興味を持ちながら取り組んでいた。一つの行事に参加する中で、みんなで一つの目的に向かって協力し合い、一生懸命最後まで諦めないことを学んだ。

(3) 特別事業について

① 乳児保育事業について

生後57日からの乳児を預かり、職員に看護師を配置し保育を行った。15名の乳児を保育した。

② 延長保育事業について

標準時間利用時間は、7時から7時半までと夕方18時半から20時まで、短時間利用時は、早朝7時から8時半までと夕方16時半から20時まで延長保育を実施した。延長時間内は園児数が少なくなることから合同保育を実施した。

③ 一時保育事業について

当園に在籍していない子どもを一時的にお預りした。延べ398名の利用があった。利用目的は就労保護者や兄弟姉妹の通院、在籍している幼稚園等の休園日のため等であった。

④ 病後児保育について

疾病回復期で集団行動が困難な状況の子どもを、専用の保育室で看護師により個別保育を行った。全員が在園児の利用で、外部からの利用はなかった。中耳炎・風邪・体調不良での利用があった。今年度は骨折等の手術後長く利用していた。

(4) 入園・特別事業利用状況

① 入園状況

定員 150 名

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
定員数	18	24	24	28	28	28	150
4月	11	24	24	25	26	17	127
5月	11	24	24	25	26	18	128
6月	11	24	24	27	26	19	131
7月	15	24	24	27	26	19	135
8月	15	24	24	27	26	19	135
9月	15	24	24	27	26	19	135
10月	15	24	24	27	26	20	136
11月	15	24	24	27	26	20	136
12月	15	24	23	27	26	20	135
1月	15	24	23	27	26	20	135
2月	15	24	23	27	26	20	135
3月	15	24	22	27	26	20	134

② 一時保育利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用人数	23	30	39	33	25	39	53	43	35	28	30	20	398

③ 病後児保育利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用人数	11	14	16	6	4	4	2	21	20	9	2	0	109

④ 病後児利用の疾患

	風邪	手足口病	手術後	骨折	発熱	湿疹	疼痛	霰粒腫	血管炎	喘息	怪我	気管支炎
0歳児		2			1					4		
1歳児	1	1	28			1					5	1
2歳児		1		24		9						
3歳児	1	1		23								
4歳児	1							1				
5歳児							1		3			
合計	3	5	28	47	1	10	1	1	3	4	5	1

⑤ 延長保育利用状況(各月の1日の平均利用園児数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年平均
早朝	3.0	1.6	1.7	1.2	0.8	1.3	1.2	0.8	1.1	0.6	0.8	0.9	1.3
夕方	2.0	3.3	1.4	2.6	1.8	1.8	3.1	3.8	2.6	3.2	3.3	2.4	2.6

(5) 給食・食育について

① 食育計画について

年間食育計画は、各クラスの年間目標を基に作成し、それに向けた取り組みを行った。年間食育計画は、年齢に合わせた計画を立てた。狭いながらも畑が2か所あるので、サツマイモと夏野菜の栽培を分けて取り組んだ。全クラスで栽培したい夏野菜の苗を選び、畑に植えた。時々苗の成長を見学したりして、野菜に対する興味関心を持つように心掛けた。収穫した野菜は給食に活用してもらい試食した。味噌作りを始め、おにぎりやクッキーを自分たちで作ったりして食を楽しんだ。

② 実施した食育に関する主な活動

時期	内容
5月～8月	夏野菜苗植え・水やり・雑草取り・収穫
10月	おにぎり・ホットドック作り
11月	さつまいも掘り・焼き芋・おにぎり作り
12月	クリスマスケーキデコレーション
1月	味噌作り

③ 給食会議で職員全体で献立の見直しを行い、より良い献立作りを目指した。

④ アレルギー対応

食物アレルギーのある子どもへの対応としては、保護者からの申請を受けてアレルギーの除去食・代替え食の提供を行った。アレルギー除去食対応4名(ピーナッツ、卵、すいか、魚卵)

⑤ 保護者に対して

保護者に食への興味と理解を深めてもらうため、毎月「給食だより」を保護者へ配布し食に関する情報を配信したり、日々の給食の献立のサンプルを玄関に提示した。お迎え時に献立のサンプルの前で足を止め、献立について会話する親子の姿が多く見られた。

(6) 保健衛生について

園児の毎日の健康管理や環境衛生及び感染防止や二次感染防止に努め、以下の事を実施した。

① 園児の健康管理

- ・登園してきた朝の子どもの様子(怪我、発疹、爪、鼻水、咳等)を、毎日担任がチェックし健康状態を把握。その後、看護師が各クラスを回り担任からの報告を受け視診した。
- ・怪我や発熱の子どもに対しては、怪我の処置をしたり発熱の子どもには担任から保護者に連絡を入れ、迎えに来るまで感染防止のため医務室のベッドで休養させた。
- ・毎月1回の身体測定と5月と10月には嘱託医が来園し、内科健診・歯科検診を実施した。検診の結果を保護者へ報告を行い早期治療に努めた。
- ・保育運での投薬は原則行わないが、熱性痙攣については保護者からダイアップを預かり看護師が管理した。
- ・看護師が中心となり、全児童に手洗い指導や、2歳児を対象に歯磨き指導を行った。

② 園内の環境衛生

- ・毎朝、看護師が次亜塩素の消毒液を作り、各クラス担任はテーブルや壁・床の消毒をし食事前やおやつの前は必ずアルコールで手指消毒を行った。

③ 感染予防

- ・0歳児にミルクや給食の飲食を行うので、食中毒予防のため月1回全職員の保菌検査を徹底し感染防止に努めた。
- ・感染症発症児は、症状が軽減するまで自宅療養のお願いし保健室の消毒を徹底し感染防止に努めた。
- ・園内や近隣で感染症が流行した場合は、毎月発行の「保健だより」で保護者への情報提供を行い、緊急性のある場合は玄関付近に情報内容を掲示し注意を喚起した。
- ・看護師は毎日の様子を感染症情報システムサーベランスに情報提供した。

④ 集団感染

- ・胃腸炎が10月末から11月にかけて集団感染した。胃腸炎と診断された児童が15名・職員3名
その他胃腸炎との診断はないが嘔吐・下痢の症状がある児童が11名で合計29名いた。10名を超えたために土浦保健所に連絡し、保健所の調査が実施された。

保健所から次のような指導を受けた。

- 嘔吐処理の方法は良く出来ているため継続すること
- 環境整備を次亜塩素酸ナトリウムで1か月間継続すること
- おむつ処理は部屋を通らずにゴミ捨て場へ移動すること
- 調乳と排泄担当者は固定すること
- 1歳児のトイレはスリッパを使用すること

- ・12月にはインフルエンザAが流行し児童20名と職員3名が罹患した。職員のマスク着用を徹底し、児童は食事前にアルコールで手指消毒を行うようにした。

(7) 行事について

昨年度の反省をもとに、検討を重ね早めに準備に取り組んだ。保護者参加の夏祭り、運動会、発表会等の行事については、児童の成長した姿を保護者に見てもらえるよう、日々の保育の中でも練習を試みるようにした。

① 実施工事

月	内容
4	★ 入園式(参加家族数 30世帯)
5	こいのぼり集会
7	プール開き 七夕集会 ★ 夏祭り(参加家族数 445名)
10	★ 運動会(参加家族数 481名) ハロウィン集会
11	★ 4歳児親子遠足(参加家族数 43世帯)
12	クリスマス会
1	★ 発表会(参加家族数 538名)
2	豆まき集会
3	ひな祭り集会 ★ 保護者会

誕生会は毎月実施。★は保護者参加行事

② ボランティアの受入れ状況

夏祭り……… 筑波研究学園専門学校生 10名

読み聞かせ… おはなしポシュットの会 6名 年1回 おはなしクレヨンの会 3名 年10回

(8) 保護者対応

① クラスだよりの配布・園内掲示

保護者への理解や協力を得るため、毎月1回園の情報や連絡事項について掲載した「園だよりの」「クラスだよりの」「保健だよりの」「給食だよりの」を配布した。また、緊急の連絡事項については、玄関付近に掲示した。

② 連絡帳の活用

担任と保護者で連絡帳を利用して子どもに関する情報の共有に努めた。

③ 苦情に対する活用

「苦情申出の窓口」を設置し、保育園における苦情解決責任者、苦情受付担当者及び第三者委員会を設置し苦情解決に努めた。

苦情解決委員会を2回実施した。(10月11日・3月23日)

(9) 事故防止と安全対策

① 園内の安全管理

- ・早番の職員は園内を見回り危険個所の早期発見に努め、発見後は園長に報告し迅速に対応した。特に遊具についてはチェックシートを活用し、毎日安全点検を実施した。
- ・プール活動の時期は水の事故を防ぐため、管理表を活用し安全点検を強化した。
- ・外部からの不審者の侵入等を未然に防ぐため門の施錠や防犯カメラの安全確認を行った。
- ・警備会社によるセキュリティシステムを導入し夜間の安全管理を強化した。また、保育中の不審者の侵入等の非常時に備え、警察と直結した110番非常通報装置を使って避難訓練を実施した。

② 園外活動中の安全確認

散歩で外部に出る時は、事前に計画書を園長に提出して承諾を得た。保育士は横断旗と散歩ベストを身に付けて、交通規則を遵守して移動し交通事故に十分注意した。帰着後は散歩中の状況を園長に報告することを徹底した。

③ 災害時の安全確保

定期的(月1回)に様々な災害を想定して避難訓練を実施した。災害時の保護者への引き渡し訓練も行った。

(10) 関係機関・地域との連携交流

① 阿見町健康づくり課の巡回相談について

7月31日と2月14日に実施された町健康づくり課の巡回相談で、多動行動等様々な問題行動により集団に入れない子どもについて心理療法士へ相談し子どもの接し方などの指導、助言を受けた。(7月31日 5名、2月14日 5名)

② 地域との交流

- ・11月に阿見町立本郷小学校の2年生が「町探索」で来園した。園内を見学したり質問したりして学習を行い、後日子ども達一人ひとりからお礼の手紙が届いた。
- ・2月に阿見町立朝日中学校の3年生の生徒が家庭課の授業で保育体験に来園した。クラスごとに手作りおもちゃを持参し楽しく体験していた。
- ・12月にゆめ組が阿見町芸術祭作品展に出品した。

2 職員の状況

(1) 職員配置(平成31年3月31日現在)

職種	園長	主任	看護師 含パート	クラス担任						栄養 士	調理員 パート	保育士 パート	保育 補助	合計
				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳					
人数	1	1	1	2	2	3	1	1	1	1	4	9	2	29

(2) 各会議の実施

会議名	開催時期
職員会議	月 1 回 (必要があれば臨時開催有)
給食会議・保健会議	月 1 回
クラス会議	随時
運営会議	月 1 回
苦情解決委員会	年 2 回
防火管理委員会	随時

(3) 職員研修

職員の資質向上への取組として、園内研修及び各種団体の主催する研修会へ職員を参加させた。実践の場で活かせるよう保育に関する知識と技術の習得に努めた。

① 内部研修

月日	内容
4月1日	新人研修 「保育全般に関して注意点等について学ぶ」
4月19日	子どもとの信頼関係 「新しい担任と信頼関係を築くための関わり方について」
5月17日	保護者対応について 「保護者との話し方、どの様に対応するか考え話した」
5月8・11日	救急救命講習 阿見町消防署において 参加者22名
6月20日	リズム遊び 「楽しい音楽に合わせて動き、体の発達と自然への認識を深めた」
7月29日	気になる子への対応 「気になる子へのアドバイスについて意見交換をし学ぶ」
8月23日	熱中症対策 「熱中症予防のための勉強会」
9月23日	感染症対策 「インフルエンザ等の感染症対策について学ぶ」
10月16日	ヒヤリハットについて 「事前に危険な行動を防ぐための方法を学ぶ」
11月20日	嘔吐処理について 「嘔吐処理の手順方法を学ぶ」
12月24日	事故防止について 「事故防止のことをしっかり学び話し合う」
1月31日	保育のことばかけ 「保育園での子どもへの言葉かけについて話し合う」
2月15日	人権教育の推進 講師 樹学園長 中村敬治氏 「子どもの人権擁護について」
	書類全般の書き方の見直し 「新保育所保育指針に基づいた書類の見直し」

② 外部研修

月日	内容
4月25日	主催 茨城県教育委員会 研修名 幼児教育指導方針説明会 参加者 1名
6月29日	主催 土浦ブロック保育協議会 研修名 講演 「夢を追いかけて」 参加者 4名
7月19日	主催 茨城県
8月4・5日	研修名 キャリアアップ研修 保健衛生・安全対策(3回) 参加者 1名

月日	内容
8月1日	主催 土浦保健所 研修名 感染症対策担当者研修会 参加者 1名
8月 6・17・26日	主催 茨城県 研修名 キャリアアップ研修 乳児保育(3回) 参加者 1名
8月28日	主催 竜ヶ崎保健所 研修名 総合母子保健・福祉ネットワーキング事業研修会
9月7・30日 10月16日	主催 茨城県 研修名 キャリアアップ研修 幼児教育(3回) 参加者 2名
10月20日	主催 土浦保育協議会 研修名 講演「あそびうた講習&コンサート」 参加者 4名
12月26日 1月8・30日	主催 茨城県 研修名 キャリアアップ研修 保護者支援・子育て支援(3回) 参加者 2名
12月27日 1月6・26日	主催 茨城県 研修名 キャリアアップ研修 マネジメント(3回)
1月31日 2月2・12日	主催 茨城県 研修名 キャリアアップ研修 障害児教育(3回)
11月10日	主催 土浦ブロック保育協議会 研修名 保育所保育指針の改定ポイントについて
12月21日	主催 土浦ブロック保育協議会 研修名 保育研究発表会 参加者 6名

3 苦情対応について

今年度は保護者からの苦情が2件あった。直接園への苦情ではなく、阿見町役場子ども家庭課から連絡を受け下記のように対応した。また、日常的に発生する保護者の些細な疑問や要望は、クラス担任、主任、園長で話し合い対応した。

申立者	苦情内容	対応状況
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・入園のしおりの中に「ティッシュボックス」の持参があったが、これは保護者が用意する物ではないのではないか ・新型コロナウイルス感染症に関して、マスクをしないと中に入れないと言われた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は入園のしおりを検討する。今年度は「園だより」で協力をお願いする事を明記した。 ・全職員に保護者への言葉かけについて指導をした。保護者へのマスク着用のご協力をお願いするが、強制は控えるように指導した。